

## 令和4年度 卒業式 式辞

R05.03.01

大手門前で皆さんを毎日見守ってきた桜の芽も日ごとに膨らみ、爽やかな春の訪れを感じる今日の佳き日に、御多用の中、御来賓並びに保護者の皆様に御臨席を賜り、愛媛県立西条高等学校、第二百二十三回卒業証書授与式を、かくも盛大に挙行できますことは、本校にとって、この上ない喜びであり、厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました二百五十九名の皆さん、卒業おめでとう。心からお祝いを申し上げます。また、この日を待ち望んでこられました保護者の皆様方に、衷心よりお喜びを申し上げます。

さて、皆さんは三年間、学業に、部活動に、学校行事にと、その折々に見事なリーダーシップを発揮し、一・二年生のよき模範となってくれました。伝統ある本校の歴史に、新たな足跡を刻んでくれた皆さんを誇りに思うと同時に、心から賞賛したいと思います。

旅立ちに当たり、はなむけの言葉を贈ります。「夢を見るから人生は輝く」モーツアルトの言葉です。彼は三十五年と言う短い人生の中で数々の名曲を残しました。彼の残した名曲は当時の音楽界に大きな影響を及ぼしその後の音楽を変えましたが、今もなお広く人々から愛されています。

また、幕末の西欧列強からの侵略の危機を乗り越えた明治時代草創期、八百万の神の如く様々な産業を生み出し、近代日本の礎を築いた渋沢栄一は、こう言っています。

「夢無き者は理想無し。理想無き者は信念無し。信念無き者は計画無し。計画無き者は実行無し。実行無き者は成果無し。成果無き者は幸福無し。故に、幸福を求める者は夢なかるべからず」と。

これから皆さんが生きていく世界は、ICT化、ロボット化が急速に進み、これまで人類が経験したことのない世界へと大きく変容していくことでしょう。今、世界中で、若い力がイノベーションを起こすことを期待しているのです。

そんな時だからこそ、理想を掲げ、夢を語って欲しいのです。そして、実行して欲しいのです。それが皆さんの幸福に繋がると思うからです。

とは言っても、人類未経験の正解がない未知の世界を進むのですから、迷子になることもあるかもしれません。そんな時は校歌を思い出して下さい。皆さんは三年間、この古城の跡で、時の流れに掉さず術を学んだのです。人の踏むべき真の道を学んだのです。心は賀茂川のように清く、理想は石鎚山のように高く保ち、時にはくじけそうな己と戦い、精一杯励み、正しき方に歩みを運ぶことが私たちの願いだからです。

本校の偉大な卒業生である十河信二さんは、有法子という中国の言葉を愛しました。「諦めるのはまだ早い。まだ何か方法はある。」という意味です。

皆さんは、一年次に、スーパーサイエンスハイスクール学校設定科目「有法子」の中で、西条市の未解決の地域課題をプロの行政マンから直接学びましたね。世の中には、その他にも解決して欲しい課題や人々の願いがたくさんあります。それらの中から、己が取り組む夢、志を見つけ、最後まで諦めずにやり遂げ、皆さんそれぞれが幸福を掴んで欲しいと思うのです。

終わりにになりましたが、これまで、皆さんを育み見守ってこられた保護者の皆様に、重ねて、心からの敬意と感謝を表します。名残は尽きませんが、巣立ちゆく卒業生の皆さんのお幸せと御活躍をお祈りし、式辞といたします。

令和五年三月一日

愛媛県立西条高等学校長

丸尾 秀樹